



2022年3月期決算概要 2023年3月期業績見通し（参考）

1. 2022年3月期決算概要
* 2022年3月期より収益認識会計基準を適用
2. 2023年3月期業績見通し

2022年5月13日

森永乳業株式会社

1. 2022年3月期決算概要

サマリー：利益計画未達も、増収増益*1

- 売上高：5,034億円（前年比+3.0%*1、計画比+0.7%*2）
- 営業利益：298億円（前年差+9億円*1、計画差△2億円*2）

売上高

- 健康に貢献する商品、高付加価値商品の継続的な拡大
→ ヨーグルト、アイスクリームなど増収
- 新型コロナウイルス感染症の影響
→ BtoB事業：業務用乳製品は前年より持ち直す（外食等向け需要）
- 海外事業：育児用ミルク輸出は前年の反動減も、菌体、ミライ社、米国堅調、Elovi（エロヴィ）新規連結

営業利益

- 原材料・エネルギー価格上昇が大きく影響**（前年差 △29億円、うち下期△28億円）、一部商品の**価格改定**実施
- ヨーグルト、アイスクリームなど**プロダクトミックス改善**、**BtoB事業など増収効果**、**海外事業の貢献**、コストの見直しなどにより増益
- ただし、**上期増益も下期減益**（前年差 上期+38億円、下期△29億円）

*1 対前年増減額、増減率は、収益認識会計基準を適用した21/3期実績との比較

*2 計画は、2022年2月9日発表の修正計画

2022年3月期業績



(単位：億円)

	21/3期	21/3期 適用後	22/3期 計画*2	22/3期	対前年 増減額*1	対前年 増減率*1	対計画 増減額*2	対計画 増減率*2
売上高	5,836	4,887	5,000	5,034	+147	+3.0%	+34	+0.7%
営業利益	289	289	300	298	+9	+3.2%	△2	△0.7%
経常利益	301	301	308	311	+10	+3.4%	+3	+1.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	187	187	346	338	+150	+80.2%	△8	△2.4%
売上高 営業利益率	4.9%	5.9%	6.0%	5.9%				
ROE 当期純利益/自己資本	9.8%	9.9%	16.1%	16.7%				
一株当たり 配当金	70円	70円	80円	80円				

- **増収増益** (実質ベース)。増収効果、プロダクトミックス改善などにより増益
- 固定資産譲渡による**特別利益約209億円 (税引前)** (1Q：港南ビル 41億円、4Q：近畿工場跡地 168億円)
- **6期連続増配**

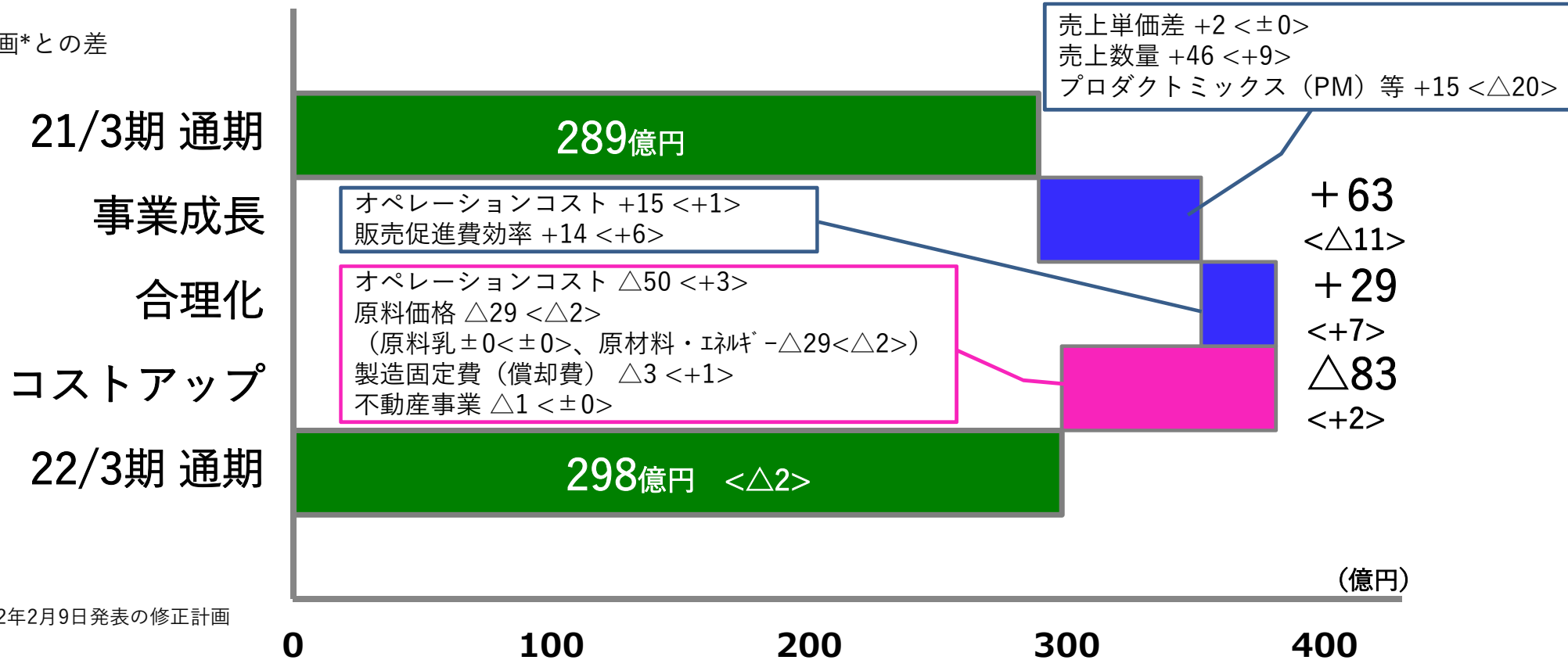
*1 対前年増減額、増減率は、収益認識会計基準を適用した21/3期実績との比較

*2 計画は、2022年2月9日発表の修正計画

2022年3月期 営業利益増減要因



<>は、計画*との差



*計画は、2022年2月9日発表の修正計画

- 売上数量：B to B 事業（業務用乳製品）の回復、「マウントレニア」価格改定後の数量減
- プロダクトミックス等：機能性ヨーグルト・アイス拡大、ミライ社堅調も、国内B to B 菌体減収、4Q前年の反動減
- オペレーションコスト：合理化の一方、人件費、物流費の増加影響大。Elovi社のれん償却費（約4億円）
- 原材料・エネルギー価格：下期の影響大。エネルギー、コーヒー、油脂、糖類など上昇

2022年3月期 事業分野別売上高、営業利益実績



(単位：億円)

	売上高				営業利益（営業利益率）			
	21/3期 適用後	22/3期	対前年 増減率*1	対計画 増減率*2	21/3期 適用後	22/3期	対前年 増減額*1	対計画 増減額*2
B to C 事業	2,623	2,601	△0.8%	△0.7%	161 (6.1%)	146 (5.6%)	△15	△13
ウェルネス事業	430	442	+2.7%	+1.0%	35 (8.0%)	38 (8.5%)	+3	+1
B to B 事業	742	821	+10.7%	+1.2%	26 (3.5%)	34 (4.1%)	+8	△2
海外事業	368	439	+19.2%	+2.9%	55 (15.0%)	72 (16.5%)	+17	+3
その他・消去	724	731	+0.9%	+3.5%	12 (1.6%)	8 (1.0%)	△4	+10
合計	4,887	5,034	+3.0%	+0.7%	289 (5.9%)	298 (5.9%)	+9	△2

- B to C 事業：ヨーグルト、アイスクリーム拡大・PM改善もビバレッジ、チーズ減収。原材料価格上昇、2月「マウントレーニア」価格改定
- ウェルネス事業：「ミルク生活」、「ジュレ」拡大、クリニコ堅調、健康食品通販の伸長、原材料価格上昇
- B to B 事業：業務用乳製品反動増（外食等向け需要）、菌体減収も関心継続、原材料価格上昇
- 海外事業：育児用ミルク輸出の反動減も、菌体、ミライ社、米国堅調。Elovi社連結の寄与

*1 対前年増減額、増減率は、収益認識会計基準を適用した21/3期実績との比較

*2 計画は、2022年2月9日発表の修正計画

2022年3月期 サブセグメント売上高（BtoC事業、海外事業）



(単位：億円)

B toC事業（単体）	21/3期 適用後	22/3期	対前年増減率*1	対計画増減率*2
ビバレッジ	481	453	△6%	△2%
ヨーグルト	518	531	+3%	△1%
アイスクリーム	387	398	+3%	△1%
チーズ	271	260	△4%	△2%
牛乳	536	541	+1%	±0%
デザート	79	79	+1%	+3%
市乳（宅配など）	196	193	△1%	△3%
基幹ブランド計*3	1,067	1,080	+1%	±0%

- ビバレッジ：「マウントレニア」プロモーションやフレーバー品の寄与あるも微減、価格改定実施（2022年2月～）。「リプトン」減収
- ヨーグルト：機能性ヨーグルト計画線で着地（約3割増）、「記憶対策ヨーグルト」堅調。「パルテノ」好調継続
- アイスクリーム：「パルム」「ピノ」「モウ」それぞれ増収。需給上の問題で一部の商品で出荷制限（主に4Qに影響）

海外事業	21/3期 適用後	22/3期	対前年増減率*1
ミライ社	247億円 / 195百万€	298億円 / 229百万€	+21% / +17%

- ミライ社：ラクトフェリンの寄与は落ち着く。乳糖やホエイたんぱく濃縮物は乳原料市況の高騰もあり拡大
- 輸出など（育児用ミルク、菌体他）：育児用ミルクは前期の大幅伸長からの反動減、菌体は米国のサプリメント向け需要などにより大きく増収
- Elovi社：22/3期よりPLに連結。売上高約30億円超、増収

*1 対前年増減額、増減率は、収益認識会計基準を適用した21/3期実績との比較

*2 計画は、2022年2月9日発表の修正計画

*3 基幹ブランド計：マウントレニア、ビヒダスヨーグルト、森永アロエヨーグルト、パルテノ、パルム、ピノ、モウ、フレッシュモッツァレラ、計8ブランド合計

Copyright©Morinaga Milk Industry Co.,Ltd.All Rights Reserved.

2. 2023年3月期業績見通し

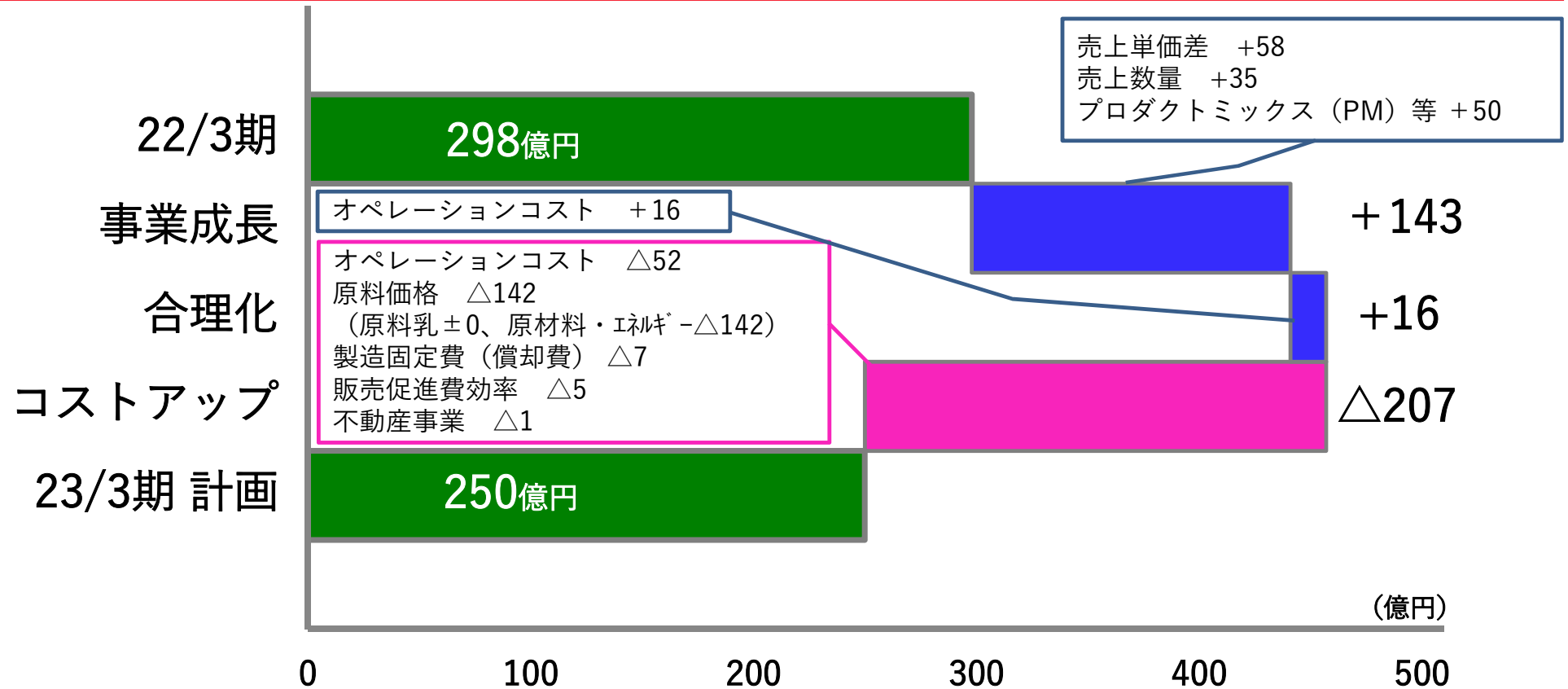


(単位：億円)

	22/3期	23/3期 通期計画	対前年 増減額	対前年 増減率	22/3期 上期	23/3期 上期計画	対前年 増減額	対前年 増減率
売上高	5,034	5,200	+166	+3.3%	2,613	2,700	+87	+3.3%
営業利益	298	250	△48	△16.1%	207	170	△37	△18.0%
経常利益	311	259	△52	△16.8%	215	177	△38	△17.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	338	158	△180	△53.2%	172	107	△65	△37.9%
売上高 営業利益率	5.9%	4.8%						
ROE 当期純利益/自己資本	16.7%	7.5%						
一株当たり 配当金	80円	90円						

- 急激な外部環境の変化を受け、営業減益計画
- 当期純利益：先期の固定資産売却益の反動減、
本社ビル建て替え・減損処理による特別損失約12億円発生見込み（23/3期 1Q）（詳細：巻末P12参照）
- 配当性向目標を30%に引き上げ**。減益計画ながらも、一株当たり配当金 **10円増配、90円**（予想）
- 取り組み方針 **1. 原材料・エネルギーコスト上昇の対応を最優先で実施**
2. 中期経営計画、サステナビリティ中長期計画2030に沿った取り組みを推進

2023年3月期 営業利益増減見通し



- 売上単価差：価格改定効果（「マウントレニア」、チーズ、アイスクリームなど）
- プロダクトミックス等：商品規格見直し、取引条件の見直しなど価格改定以外の対策。機能性ヨーグルト・アイスなど高付加価値商品拡大
- オペレーションコスト：合理化の一方、人件費、物流費の増加影響大きい
- 原材料・エネルギー価格：輸入乳原料、輸入原料チーズ、エネルギー、コーヒー、包装資材などの上昇影響、為替影響

2023年3月期 事業分野別売上高、営業利益計画



(単位：億円)

2023/3期	売上高				営業利益 (営業利益率)			
	上期計画		通期計画		上期計画		通期計画	
	売上高	対前年増減率	売上高	対前年増減率	営業利益	対前年増減額	営業利益	対前年増減額
栄養・機能性食品事業	644	+4.0%	1,290	+4.8%	47 (7.3%)	△11	79 (6.1%)	△12
主力食品事業	1,015	+1.2%	1,840	+1.5%	81 (8.0%)	△17	90 (4.9%)	△18
B to B 事業*	434	+8.8%	870	+5.9%	12 (2.6%)	△4	21 (2.4%)	△5
海外事業*	230	+9.8%	464	+5.8%	27 (11.7%)	△5	53 (11.4%)	△10
その他・消去*	377	△1.4%	736	+0.7%	4 (0.9%)	△1	7 (1.0%)	△3
合計	2,700	+3.3%	5,200	+3.3%	170 (6.3%)	△37	250 (4.8%)	△48

* B to B 事業、海外事業、その他・消去の対前年増減率、増減額は、新中期経営計画における事業分野別の見直しに伴い調整

2023年3月期 サブセグメント売上高計画



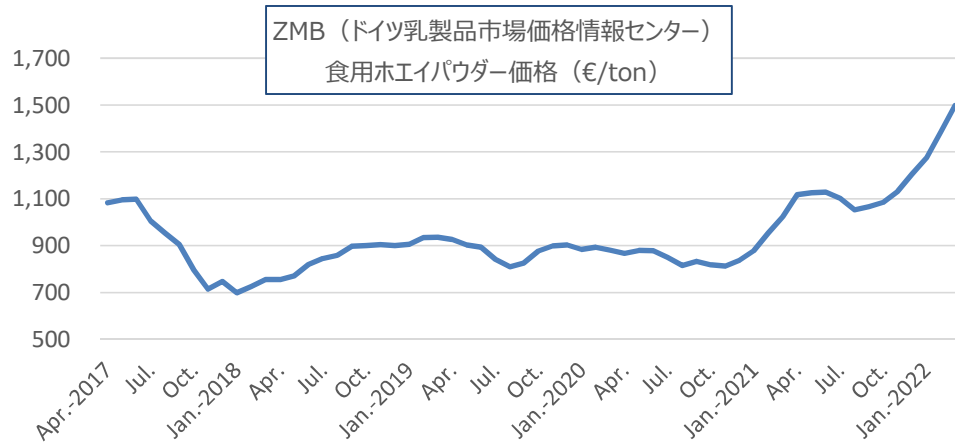
(単位：億円)

2023/3期	上期計画		通期計画	
	売上高	対前年増減率	売上高	対前年増減率
栄養・機能性食品事業				
ヨーグルト	290	+6%	572	+8%
市乳（宅配など）*1	97	±0%	193	+1%
栄養食品	66	±0%	130	+1%
クリニコ	125	+3%	251	+2%
主力食品事業				
ビバレッジ*2	310	+2%	558	+2%
アイスクリーム	268	+5%	428	+7%
チーズ	140	+6%	274	+5%
牛乳*2	230	△2%	439	△2%
デザート	41	△2%	78	△2%

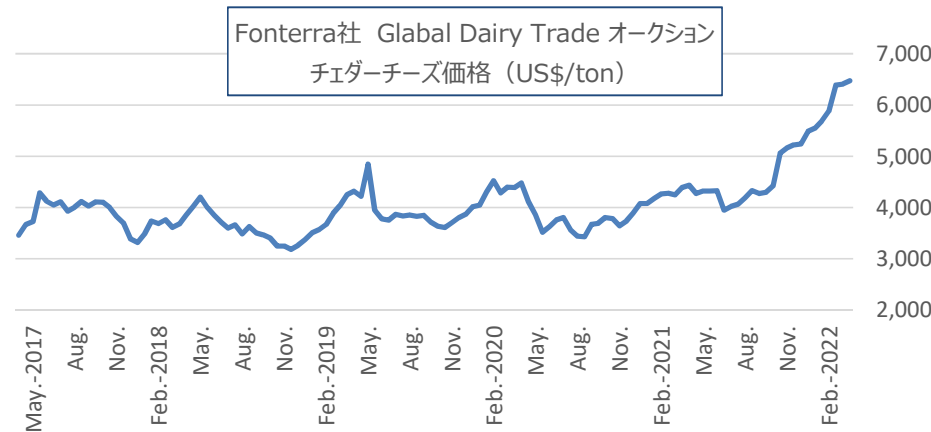
*1 市乳（宅配など）の22/3期実績は、新中期経営計画における事業分野別の見直しに伴い調整

*2 23/3期より、ビバレッジ、牛乳間の対象商品を移管。対前年増減率を移管後のものに調整

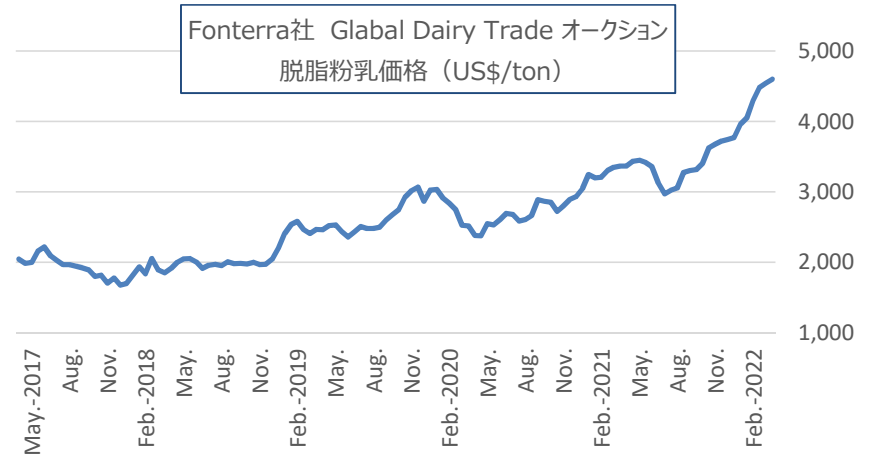
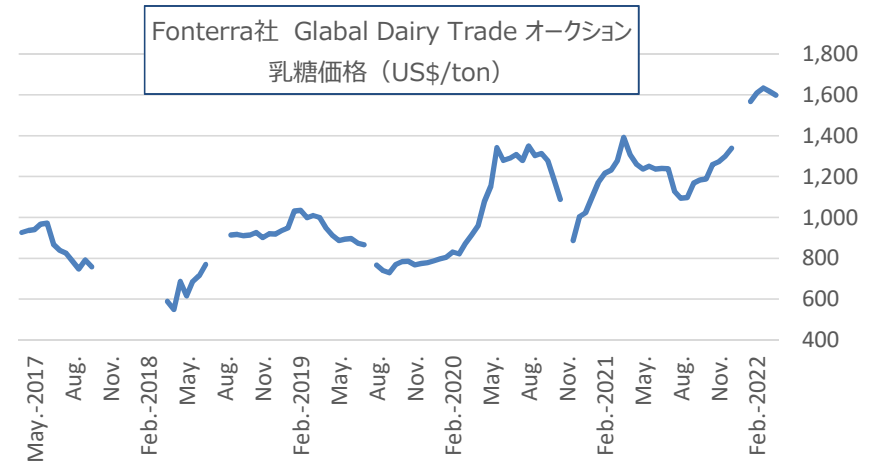
(参考) 乳原料市況データ (過去5年間)



▶ ドイツ・ミライ社の調達する原料ホエイ価格と相関



Source : ZMB (食用ホエイパウダー)、Fonterra社 Global Dairy Trade オークション (乳糖、チェダーチーズ、脱脂粉乳) * 線無し部は売買不成立



(参考) 5月13日適時開示「森永プラザビル建替えに関するお知らせ」



2022年5月13日

各 位

森永プラザビル建替えに関するお知らせ

当社は、2022年5月13日開催の取締役会において、当社の本社が入居する森永プラザビルの建替えについて、下記のとおり決定いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 森永プラザビル建替えについて

現在、当社の本社が入居する森永プラザビル（1974年竣工）は、築後48年を経過しており、当社は従前より老朽化に伴う建替えを検討してまいりましたが、このたび現在の所在地にて、当ビルを建て替えることを決議いたしました。

建替えにあたりましては、都市計画提案制度の活用により資産価値の向上を図るとともに、持続可能な社会の実現に向けた環境性能および地域との共生に十分配慮して取り組んでまいります。

- (1) 所在地
東京都港区芝五丁目33番1号
- (2) 敷地面積
6,135.55㎡
- (3) 建替え後のビルの概要
建物の仕様、投資金額、時期（着工および完成時期）等は未定です。

2. 当社の移転先

当社の移転先は以下のとおり、計画しております。

- (1) 移転先
汐留シティセンター 東京都港区東新橋一丁目5番2号
- (2) 移転時期
2024年春（予定）

3. 当ビル建替えによる影響

本決議に伴い、当ビルの賃貸部分を減損処理することにより、2023年3月期第1四半期において、特別損失が約12億円発生する見込みです。

また、当ビルのその他の部分について新たな耐用年数を採用することにより、2023年3月期において、減価償却費が約2億円増加する見込みです。

なお、金額については、いずれも精査中です。

以 上



かがやく“笑顔”のために

森永乳業株式会社

業績予想に関する注意事項

この資料の数値のうち、過去の事実以外の計画、方針、その他の記載にかかわるものは、将来の業績にかかる予想値であり、それはいずれも、現時点において当社が把握している情報に基づく経営上の想定や見解を基礎に算出されたものです。

従いまして、かかる予想値は、リスクや不確定要因を含むものであって、現実の業績は諸々の要因により、かかる予想値と異なってくる可能性があります。かかる潜在的リスクや不確定要因としましては、主要市場の経済状況および製品需要の変動、為替相場の変動、国内外の各種規制ならびに会計基準・慣行などの変更等が含まれます。

なお、この資料における記載金額については、億円単位未満を四捨五入して表示しているため、内訳と合計金額等が合わない場合があります。また、特に注記のない場合は、累計値を表示しています。